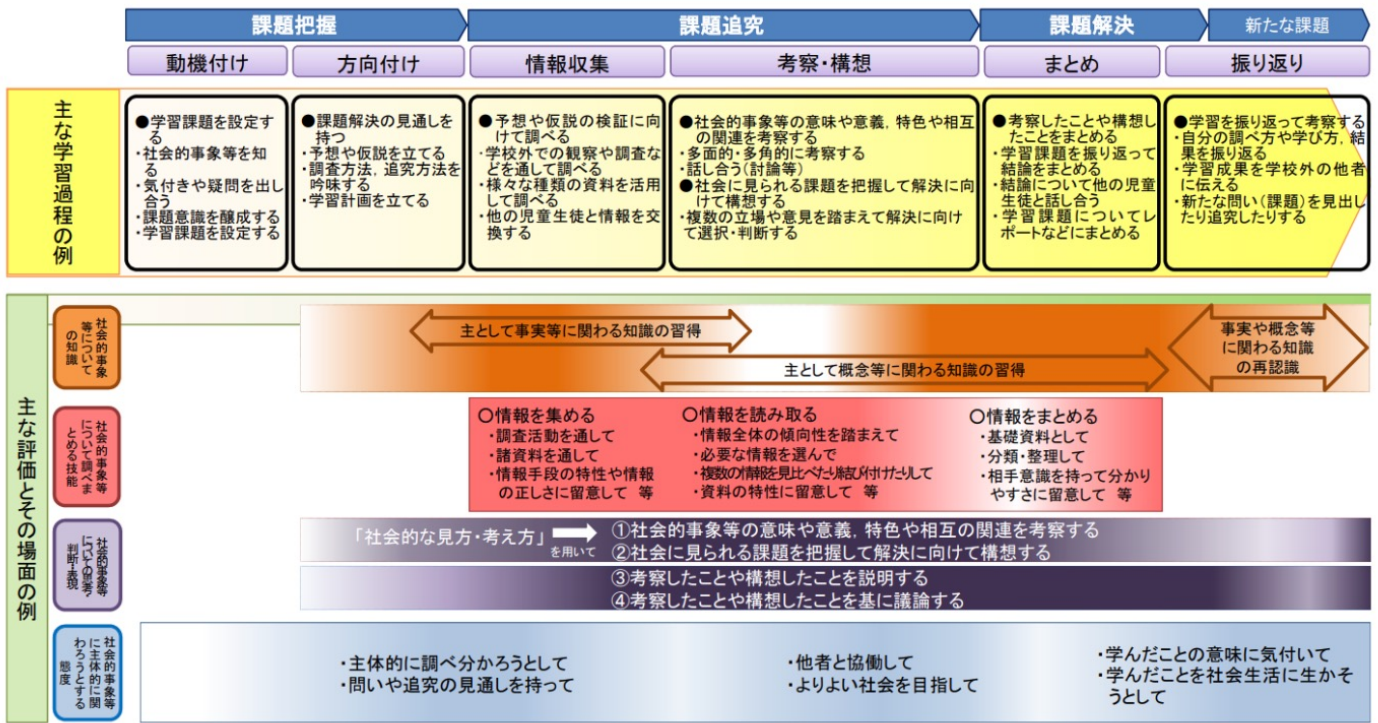
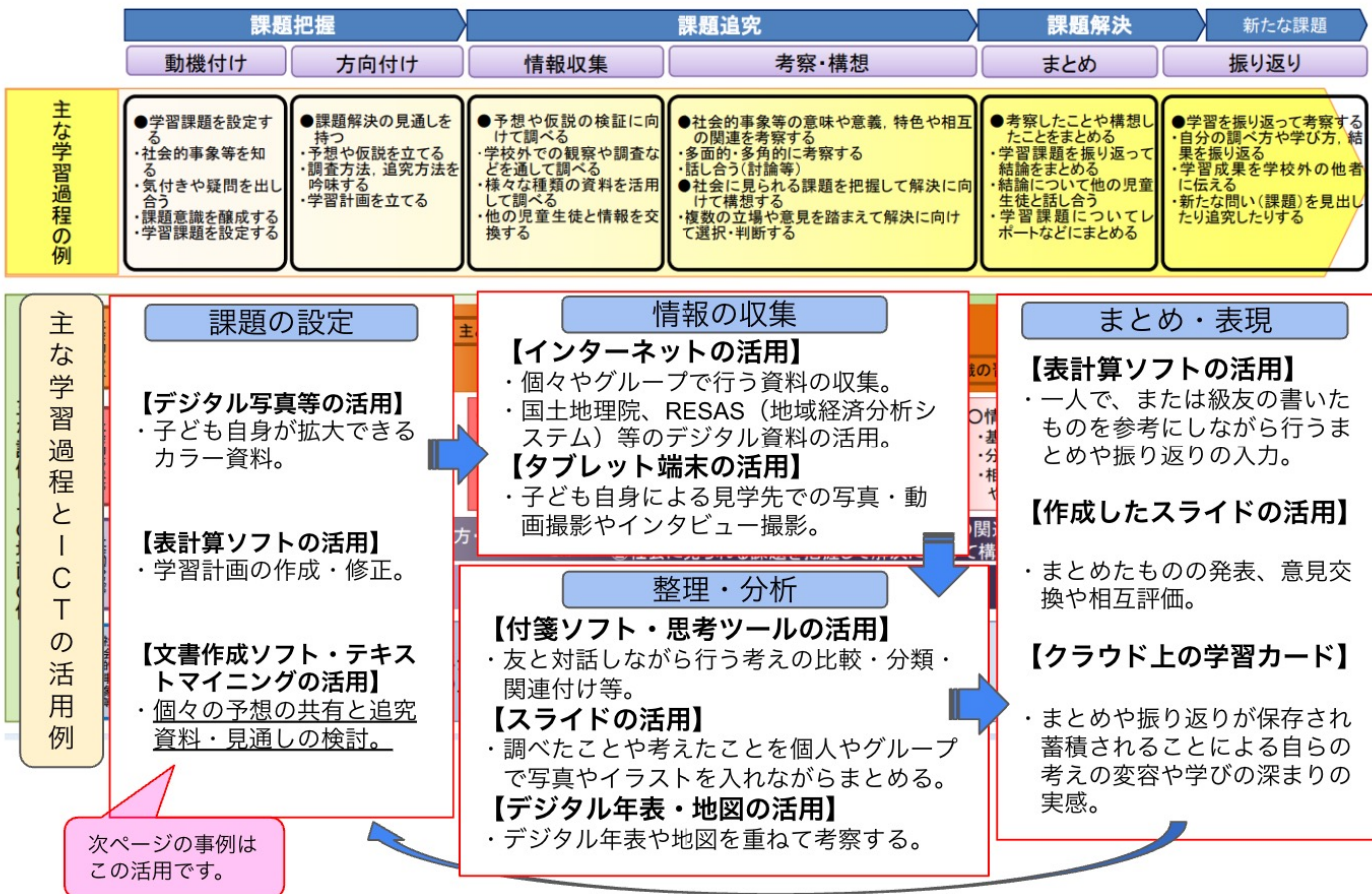


社会の学習過程のイメージ



社会のICT活用のイメージ

は「令和4年度 教育課程編成・学習指導の基本」P14の「課題解決に向かう探究的な学習の課程」



学年・単元名：中学校3年・人権と共生社会

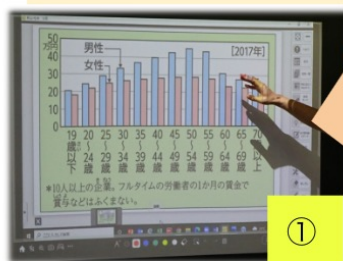
見方・考え方：対立と合意、個人の尊重と法の支配等に着目し、年齢別男女賃金格差に関する資料を比較・関連付けること

ICTの活用：クラウドを用いて、資料を基に気付いたことや予想を多様な視点で出し合い共有する

学習場面：学習問題について、予想を基に学習課題を設定する場面

「課題の設定」に至るまでの流れと次の学びへのイメージ

平等権について学習した生徒が、導入の資料（日本の年齢別男女別賃金格差のグラフ）をもとに、「なぜ男女の賃金格差があるのか」という問いをもち予想を基に問いの解決に必要な資料を考える。

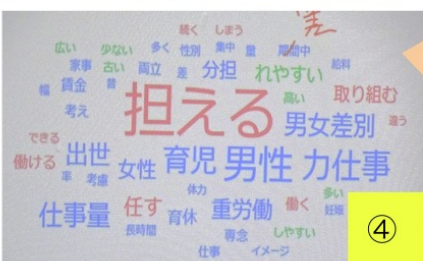


写真① 前時に学習した平等権について全体で確認した後、教師は問いにつなげる手立てとして年齢別男女別賃金格差のグラフを提示し、どの世代も女性の賃金が低いことに生徒は問いをもちました。

写真② 一人一人が問いに対する予想をクラウド上の表計算ソフトに入力しました。



写真③ クラウド上の表計算ソフトに入力した一人一人の予想を全体で共有し、自分の立てた予想と級友の予想を比較したり、関連付けたりしながら自分の追究の見通しをもちました。



写真④ 教師は一人一人の立てた予想をテキストマイニングに貼り付けました。表示されたキーワードを基に、着目する視点や、必要な資料、追究の方法を生徒と一緒に確認しながら「男女の働き方のちがいや労働時間に着目して賃金格差の理由を考えよう」という学習課題が位置付けました。

この事例のポイント

- 主体的な学びに向けて、生徒の言葉や予想を基に学習課題をつくる際の時間や、課題設定までの時間を短縮し、追究の時間を確保することができること。
- 表計算ソフトに入力された学級全員の予想を参考にすることで、一人一人が自分の予想や追究の見通しを立てることができること。
- テキストマイニングを用いることで、生徒の中にある追究の視点が視覚化、キーワード化され、生徒の気づきを基に学習課題が設定できること。